

しんじ新聞

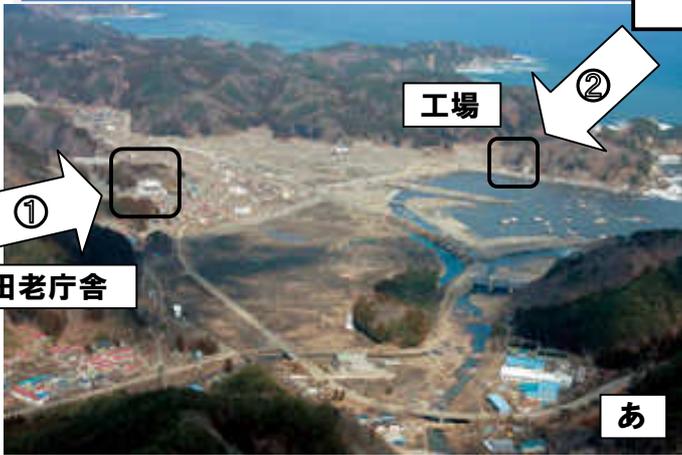
No. **183** いつもありがとうございます!
 2011年6月
 品川区議会議員
 無所属
 高橋 しんじ



※毎週、区政や区内の出来事についてご報告しています

被災地へ ②

—宮古市、復興に向けて—



田老地区の全壊家屋は、1609軒。宮古市の総被害の約44%を占めます。(い)いとも簡単に大防潮堤(矢印)を津波が乗り越えました。

(う)倒壊家屋が市役所田老総合事務所(白い建物)に押し寄せました。(え)視察当日、総合事務所から見た町です(6/14)。



倒壊家屋などの撤去はほぼ完了していましたが、何と表現したらよいかわからない惨状が180度に広がり、本当に辛い光景でした。200m程先に大防波堤(矢印)。地震前は家屋があり、見えなかったはずです。※(あ・い・う)は、『広報みやこ』より



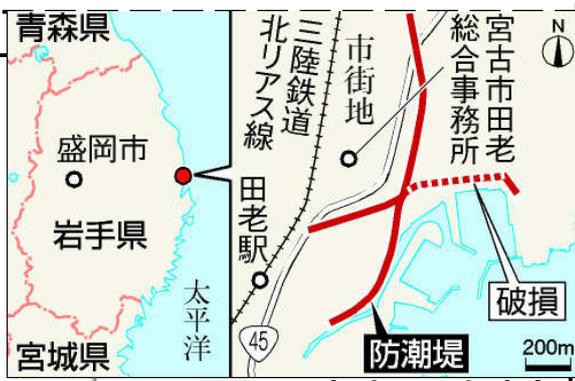
田老地区

宮古市田老(たろう)地区(旧田老町)は、人口約4400人。宮古市中心部から車で約20分。典型的なリアス式海岸の町(写真上)で、津波が多いことから「津波太郎(=田老)」という異名がある町です。1896(明治29)年の明治三陸地震津波で1859人、1933(昭和8)年の三陸地震津波で911人の犠牲者が出ました。その後約50年かけて総延長2433m、高さ10mという全国最大規模の津波防潮堤を建設(総工費50億円)。「万里の長城」とも呼ばれ、1960(昭和35)年のチリ地震津波では犠牲者ゼロでしたが、今回の津波には、なすすべがありませんでした。

高橋しんじ事務所

東京都品川区東大井 4-13-11-304 〒140-0011
 TEL:03-5461-8757 FAX:03-5461-8763
 E-mail: takahashi-shinji@spa.nifty.com
 ホームページ: [品川区 高橋しんじ](#) 検索
 ☆過去の『区政報告』がHPでご覧になれます。
 ☆『区政報告』への感想をぜひお寄せ下さい。
 ☆『区政報告』をお店の片隅に置かせて下さい。

岩手県宮古市と品川区は、災害時援助協定を締結しています。協定に基づき、義援金や援助物資を届けています。品川区と関係に深い宮古市の状況を視察し、先週からご報告しております。とても悲惨な状況です。今後も復興に向けた様々な援助を続けていきたいと思ひます。



→
 【参考】
 朝日新聞

高橋しんじプロフィール

平成23年4月5,232票のご支持をいただき、現在2期目。若草幼稚園、品川区立鈴ヶ森小・中学校、早実高、早大(政経学部政治学科 専攻は地方行政)・同大学院博士課程で学ぶ。東大研究員、塾などを経て、教師(早実高、都立日比谷高・青山高・大森高)。軟式野球ルーキーズ監督。平成19年4月、無所属・新人として初当選(2541票)。『議員力検定1級』(22年12月合格)
 ☆初心を忘れずにガンバります!
 しがらみのない無所属



無所属 品川 区政報告

No.183 2011年 6月

発行所 品川区議会 無所属 品川
発行者 高橋慎司
〒140-8715 品川区広町 2-1-36 5階
Tel 03-5742-6816 Fax 03-3772-8878

☆区政へのご要望をお寄せ下さい!!
☆ご希望の方に「区政報告」をお届け(郵送他)いたします。ご連絡ください。

あの街 **ズームイン!**

反対面の写真の矢印②の場所にあった工場。右下が海です。4階建ての3階まで津波が襲いました。津波の高さ、恐ろしさを目の当たりにしました。車の大きさからいかに津波が高かったか、想像できます。

田老港



避難所の暮らし

「宮古小学校」

6/2 現在で宮古市の方 43 人が体育館で避難されていました。市の職員は 1 人。5 月までは自衛隊の炊き出しがあったそうです。当日、被災地を巡回しているボランティアの美容師が山口からキャラバンカー(写真)でみえて、無料でヘアカットをしていました。「特に女性の方は、ヘアカット後に明るい表情になり、精神的ケアにもなるんですよ」というお話が印象的でした。高齢者施設も巡回しているそうです。車イスでも大丈夫。



リフト付きです

「◇ふれあいランド ◇愛真館」

①「ふれあいランド」(47 人避難) ②愛真館(165 人)は共に盛岡市内にあり、県内の被災者を受け入れています。①体育館・ホールに畳を敷いて生活しています。日赤病院がすぐそばにあるので要治療の被災者が多いとのこと。盛岡市職員は、2 人(24 時間体制で交代)。②温泉旅館です。要介護の高齢者が半分以上。市職員は、3~5 人体制。日帰り交代なので引継ぎが悪く被災者からクレームもあるとのこと。
☆「県内で被災せず、元気な盛岡市が、苦しんでいる県内の方を助けなければ。また、被災者同士の人間関係に苦労している」と話してくれた市職員は、東京都大田区出身の方でした。



車内には美容設備が

地震 体験記

3月11日、その時盛岡市内では...

盛岡市中心部は、沿岸から直線距離で約 100km(車で約 3 時間)です。当時、市内は、『震度 5 強』でした。盛岡駅から 2 km ほど離れた市中心地にお住まいの方にお話を伺うことができました。

この方は、10 階建てマンション(平成 22 年 3 月築)の 10 階にお住まいでした。お話の一部をご紹介します。都市部での地震体験です。

「ものすごく揺れ、すぐ断水となり、停電となったことがわかった。11 日の夜は、余震が続き、とても怖かったので家から出て、駐車場の車の中で寝た。停電のため、水をポンプでくみ上げられず、断水が続いた。マンション 1 階の水道は、使用できたので、住民は、バケツに入れて運んだ。エレベーターが停まっていたので 10 階まで階段で運び、とても大変だった(この方は 60 歳の男性)。

テレビは見られず、ラジオだけが頼りだった。携帯電話は全く使い物にならなかった。固定電話も電気が必要な機種(留守電や子機があるもの)なので使えず困った。また、転居して 1 年経っていたが、避難所を調べておかなかつたので、どこに行けばよいかわからなかった。とても後悔した。

(※駅周辺の避難所は、新幹線に乗れなかった人々が泊まったそうです)

市役所からの連絡など何もなく、また、知る方法もなく、市役所など何の役にも立たないと思った。役所を意識する気にならなかった。期待できないと思い、問い合わせもしなかった。頼りになったのは、マンションの隣人など地域の方々に、口コミなどによる情報などを共有して、様々な事に対応できた。」

☆幸いにもこの方は、震災による倒壊やケガの被害等は、ありませんでした。お話は、示唆に富むことが多く、とても参考になりました。

☆改めて、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

今回の視察で学んだことを今後の品川区の防災政策だけでなく、安心・安全なまちづくりといった区政全般の展開に活かしていくつもりです。

☆視察で一部地域の区政報告配布をお休みさせていただきました。